

<指導の実際>

①教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・スクールダッシュボード、レディネステスト、業者テスト、パワーアップ問題

○多様なデータから、教師が把握していた児童について更なる課題を見出すことができたとともに、認識していなかった児童についてもつまづきを把握することができ、具体的な手立てを設定、講じることができた。また、集団の傾向としても課題が明らかとなったので、単元計画の中に毎時間「パワーアップ問題」を設定して基礎基本の定着を図るなど、実態に応じた手立てを講じることができた。

- 通常の授業時においても、限られた時間の中で実態を把握し、手立てを設定していける方法を研究する。
- 手立ての有効性を明らかにするためにも、本授業での手立てを継続して取り組んでいく。

②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用 forms を用いたパワーアップ問題(既習の振り返り)は、ゲーム感覚で楽しく、かつ、引っ掛けも入っていて児童の思考を鍛えるのに有効である。ただし、答え合わせに時間がかかることが課題である。



手立て② ICT・ホワイトボードの活用 ホワイトボードは、児童にとって考えを整理・表現したり友達と共有したりするのに使いやすく、また、考え方に行き詰った児童にとっても参考となり、有効な手立てであった。今後は、図や式にキーワードを加え、児童同士が考え方を語り合い、本時の大事なことやまとめを導き出せるように指導していく。



手立て③ 多様な考え方の提示 ルーブリックのAやSを目指している児童のために、考えられる解決方法の掲示物を貼っておき、考えを広げ深める手助けとなりようにした。本時では、自分で考えることに多くの時間を使ったので考えを広げる活動までは発展しなかった。今後の指導を通して、多様な考え方を導く楽しさを味わえるようにする。



手立て④ 気付きを促す声掛け 学習を進めながら、課題に対



手だて⑤ 学習スタイルの選択と個に応じた指導 教師と一緒に、友

手だて⑥ メタ認知の力を高め、自己調整力を育てる指導の工夫 授業の振り返りの視点を示したことで、単なる感想になるのではなく、自分の学びについて客観的に捉える力を育てていけるようにした。さらに、2年生のこの段階では、とにかく量を多く打ち、続

して「つまり」とまとめを記していけるとよいという視点を、口頭で与えていった。2年生の1学期の段階ではまだ慣れていなかったが、年間の指導を通じてそれができるように繰り返し指導していく。

達と一緒に、一人で、タブレットのヒントを参考に、複線型の授業を行った。これにより、全員が、解決に向けて主体的に取り組むことができた。

けていく中で質が高まっていくように指導した。単元の終わりにはじっくりと振り返ってまとめる時間をしっかりと確保したことで、多様な視点で自分の学びを振り返る様子が見られるようになった。

<協議会>

授業者の意図・反省

- ・新学期始まってから1か月の2年生をどう育て行くか考えていた。ルーブリック、ホワイトボード等を使って学び合いを指導してきた。
- ・教科の深い学びにはいきつけなかった。自己調整力を高める難しさを感じつつも、継続して取り組み育んでいきたい。

研究協議(○成果 ●課題)

<「スクールダッシュボード」グループ>

○スクールダッシュボードの活用をすることで児童のつまずきと意欲が明確化されるので、手立てを考えるのに有効活用できてよい。

●ルーブリックの使い方の難しさを感じる。

<「深い学び」グループ>

○様々な学び方があることが素敵だった。タブレットで操作して活動するときの時間配分の難しさを感じる。自立解決で前回の学びを生かそうとしている姿がよかった。

●ルーブリックの目標を決定するのに時間がかかってしまった。

指導講評

教育研究所 主任指導主事 渡曾 哲弘 先生

- ・昨年度、教育データを活用し、どのようなことを変えていきたいか検討した。授業における見取りに加え、データを活用していくことで教師が一人ひとりの状況を把握しやすくなり、効果的な指導・支援を行うことができる。
- ・R-P-C-D-Aサイクルの中にデータ活用を位置付けることで、子ども一人ひとりの状況を丁寧に把握でき、効果的な指導・支援を行うことができる。

教育研究所 主任指導主事 秋永 圭子 先生

- ・「スクールダッシュボード」を、子どもや先生が学習ログとして使っていただきたい。
- ・スクールダッシュボードを見て主体性が低い子が見つかった際に、「○」がついた日の授業を思い出して次の授業に生かして行っていただきたい。
- ・今後、スクールダッシュボードのデータを分析する時間を設け、活用方法を考えて行っていただきたい。
- ・児童の実態もダッシュボードから読み取れる。授業とデータを比べて検討する時間を設けると、研究

の実績も蓄積される。

教育課程指導課 主任指導主事 清水 武蔵 先生

- ・この時期に研究授業を行ってくれたことの素晴らしさ。挨拶などから元気で雰囲気がよく、学級経営がしっかりされている。今日の授業を全て真似するのではなく、部分的に自クラスに生かすとよい。
- ・今日の授業について

「深い学び」

- ・子どもたちに委ねて授業をしている。この時期にできることがすごい。子どもたちが自分なりに課題解決に向けて何かしていた。困ったときに何か動けることが大事。一回やってダメだったら、「ここを改善してやってみよう」など試行錯誤していくのが大切。子どもの素朴な疑問を価値付けして授業を子どもに委ねていくとよい。

「ルーブリック」について

- ・必要かどうか考えて使うべき。必ずしも使う必要はない。今回はSとAが少なかった。ゴールを明確にしたいときに使うことが効果的。ルーブリックを活用するならゴールモデルを示してあげる。Sのモデル、Aのモデルなど。
- ・子どもの発言に耳を傾けてあげる。そうすると様々な手立てを考えるための手助けになる。
- ・自立解決が始まって5分ほど経ったら全体で確認する時間が必要。今後は個別と一斉を両方活用することが必要。
- ・今回は一斉にやって考える方が上手くいったかもしれない。まずは「深い学び」を狙ってどこを子どもたちに委ねるか考える。